

平成25年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成26年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等	
4. 5 < X	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. 5 < X ≤ 4. 5	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. 5 < X ≤ 3. 5	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. 5 < X ≤ 2. 5	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1. 5	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

## 公立大学法人広島市立大学 平成 25 年度業務実績に係る評価

### 全体評価

#### 評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

#### 評価コメント

平成 25 年度は、法人化後 4 年目となり、法人化に伴い導入した新構想の多様な取組の多くに好ましい形での定着が見られるようになった。この間も、教育機関として最も重要な「学生募集」と「就職」が順調に推移し、全体として、「学生を中心に据えた」見直し及び改善の好循環が随所に見られる。教育担当者の真摯な努力の跡が当年度においても顕著である。一方で、大学がこのような安定期に入ってきたせい、めざましい新機軸が出現しにくくなってきた嫌いがあり、このまま弛緩するのではなく、次期中期計画に向けた議論や平成 26 年度に迎える開学 20 周年等を契機として、更なる脱皮を図るための検討を期待したい。

また、グローバルに進行している知識基盤社会の深まりに合わせ、大学院教育の役割にも変化が見られる。広島市立大学のユニークな構成を活かし、学際的な知見が横溢する中で、当大学にしか養成できない個性的な高度人材を育成するとともに、国際平和文化都市の知の拠点として、留学生を広く受け入れる環境を整え、多様な交流を広げていくことも意義深いと考える。

今年度の評価は、過去の実績に比し最も評点が高く、また結果として大学が行った自己評価結果と全ての項目で一致した。このことは決して偶然ではなく、過去の評価のやり取りを経て、大学側の努力と評価委員会の期待とが自己点検・評価活動を通じて共鳴し増幅されてきたためであると考え。

最後に、剰余金に関し、その多くは大学側の教員・事務員一体となって効率化と節約に励んだ結果であることに疑う余地はないが、教育機会を通じた学生への還元をはじめとする質の追究を大前提として、大学運営における意思決定の迅速化に対しても、格段の配慮を払うべきことを付言しておきたい。

### 組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

全体評価（評点）

大項目名	評価の記号 (大項目評価)	※1 評点 ( $\alpha$ )	評価比率 ( $\beta$ )	$\alpha \times \beta$	評価の記号 (全体評価)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育	A	4	20%	0.8	
2 学生への支援	B	3	10%	0.3	
3 研究	A	4	15%	0.6	
4 社会貢献	A	4	15%	0.6	
5 国際交流	A	4	10%	0.4	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	—				
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B				
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	4	15%	0.6	
計				※2 3.9	A

※1 「評点」は「評価の記号（大項目評価）」と連動する。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※2 「全体評価の記号」はこの数値（ $\alpha \times \beta$ の計）と連動する。

全体評価の記号	S	A	B	C	D
$\alpha \times \beta$ の計(=X)	$4.5 < X$	$3.5 < X \leq 4.5$	$2.5 < X \leq 3.5$	$1.5 < X \leq 2.5$	$X \leq 1.5$

項目別評価（総括表）

評価項目	評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	A
(1) 教育内容の充実	
ア 全学共通教育	A
イ 特色ある教育	B
ウ 学部専門教育	A
エ 大学院教育	B
(2) 教育方法の改善	
ア 授業内容及び授業方法の改善	B
イ 学習環境及び学習支援体制の整備	B
ウ 成績評価システムの整備	A
(3) 積極的な広報と学生の確保	
ア 積極的な広報	A
イ 学生の確保	B
(4) 教育実施体制の整備	
ア 教職員の配置等	B
イ 教育環境の整備	A
ウ 芸術情報の利用環境の整備	B
2 学生への支援	B
(1) 学習支援	—
(2) 日常生活支援	B
(3) 健康の保持増進支援	—
(4) 就職支援	A
(5) 課外活動支援	—
(6) 経済的支援	B
(7) 留学生支援	B
3 研究	A
(1) 研究活動の活性化と成果の普及	
ア 研究活動の活性化	A

評価項目	評価の記号
イ 研究成果の普及及び還元	A
(2) 研究体制の強化	B
4 社会貢献	A
(1) 生涯学習ニーズへの対応	A
(2) 「産学公民」連携の推進	
ア 地域産業界との連携	A
イ 国、地方自治体等との連携	A
ウ 学術機関及び研究機関との連携	B
エ 小中高等学校等との連携	A
(3) 社会連携センターの機能の充実	
ア 社会連携センターの体制整備	—
イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
ウ 研究成果、学内資源等の活用	A
エ 学生の育成	B
5 国際交流	A
(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	A
(2) 留学生への支援体制の充実	A
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 運営体制	B
2 人事	—
3 事務処理	A
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 自己収入の増加	A
2 管理経費の抑制	A
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	—
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B
1 施設及び設備の適切な維持管理等	A
2 安全で良好な教育研究環境の確保	B

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育に関する目標	1 教育(大項目)		<p><b>大項目評価</b></p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「全学共通教育の充実」をはじめとして、教育に関する様々な取組を実施した。</p> <p>全学共通教育においては、自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図る「基礎演習」を全学で実施し、アクティブ・ラーニングの導入などの将来を見据えた検討を行った。また、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を引き続き実施し、多数の学生が参加した。更に、「CALL 英語集中」の継続的な見直しに取り組み、効果的な学習方法の定着に成果を挙げた。</p> <p>学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会として、ハーバード大学名誉教授のエズラ・ボーゲル博士や国連広報センターサービス部長などを講師とする講演会や公開講座等を計 9 回実施した。</p> <p>学部・大学院教育においては、内容の更なる充実に向け、アンケートの分析などを通じ、国際学部では短期語学研修を充実し、情報科学部では学科配属に係るガイダンスの拡充や独自の就職ガイダンスを実施した。また、芸術学部では、教育効果の測定指標となるデータベースの本格運用へ向けた取組を進めたほか、芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するための文化財保存学特講の内容を充実した。</p> <p>学習環境の整備においては、学生の自習スペースを確保するため、附属図書館内に対話学習が可能なラーニング commons の整備を決定したほか、学生会館内に、学生が昼食時以外に自習等を行うことができる場所の整備に向けた基本方針を決定した。</p> <p>大学の広報については、本学の志望者に本学での学びの具体的なイメージを伝えるため、受験情報サイト「夢ナビ」における講義情報の掲載などの積極的な取組を展開するとともに、平成 26 年度のミニ・オープンキャンパスを授業体験を主体としたライブキャンパスに変更するなどの改善に取り組んだ。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(1) 教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するとともに、グローバル化や情報化の進展等時代の潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。	(1) 教育内容の充実 ア 全学共通教育（小項目） (7) 自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。 (イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施する。  (ウ) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。  (エ) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。	○科目「基礎演習」の全学実施 ○科目「基礎演習」の実施結果の評価、科目内容の見直し  ○「いちだい知のトライアスロン」事業の実施、事業内容の見直し  ○見直し後の「英語応用演習」に係る教員アンケート調査の実施 ○「CALL 英語集中」の改善、検証 ○情報科学部において実施する「eラーニング英語」の改善、検証	以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			<p><b>小項目評価</b></p> <p>○自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、「基礎演習」を全学で実施した。また、1 年次生全員を対象に全学共通系科目に関するアンケート調査を実施した。特に科目「基礎演習」の実施結果については入念に回答結果を分析し、平成 26 年度に反映させることとした。また、各学部から教務委員長と科目担当者 2～3 名の出席のもと、3 学部共同の「基礎演習」懇談会を実施し、学部間の教育内容の相違点、類似点を明らかにすると同時に、アクティブ・ラーニングの導入や 3 学部合同ゼミとすることの可能性について意見交換を行った。この結果は平成 26 年度に整備予定のラーニング commons の利用や次期中期計画にも取り入れていくこととした。</p> <p>○学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えて幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施した。チャレンジコースにおいては、画集、DVD 等選択の幅を拡げるプレゼンテーションを導入した。また、出場者が本を紹介しディスカッションを行う「ビブリオバトル」を新たに企画した。このような事業内容の充実により、平成 24 年度同様、多くの学生が本事業に参加した。更に、平成 26 年度の実施に向けて指定図書限定数を緩和する等、シラバスの見直しを行った。</p> <p><b>【参加学生数等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トライアスロン参加学生数：429 名（スタートアップコース 427 名、チャレンジコース 2 名） （平成 24 年度：433 名（スタートアップコース 431 名、チャレンジコース 2 名））</li> <li>・出張講座参加学生数：28 名（平成 24 年度：111 名）</li> <li>・語学センター映画上映会参加学生数：約 220 名（平成 24 年度：223 名）</li> <li>・学生への図書貸出数：24,290 冊（平成 24 年度：21,366 冊）</li> <li>・感想レポート数：620 件（平成 24 年度：821 件）</li> </ul> <p>○「CALL 英語集中」の課題である不適切な学習と学習休止の影響についての改善策の一環として、第 1 回目の授業開始時にこれらの点についてデータを示しながら履修者に説明し、学習への取組姿勢の改善を促した。また、履修者が各自の学習をより客観的に把握するこ</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>全学共通教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。	<b>イ 特色ある教育（小項目）</b> (ア) 平和に関する教育を推進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積極的に参画する。 (イ) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。 a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。 b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促	○平和研究所の教員が全学の平和関連講義等に参画 ○カリキュラム内容等に関するアンケート調査の実施 ○アンケート結果を踏まえたカリキュラム内容等の見直し ○異文化に触れることができる行事の学生への情報提供	とができるよう、各課題の学習に要した時間等のデータをフィードバックするシステム改善を行った。更に、履修者を対象としたアンケート調査を事前、中間、事後に実施するとともに、受講期間中の学習データ及び TOEIC テストの結果も併せて分析した。その結果、不正解だった部分の見直しや復習といった丁寧な学習が行われていないなど、学習効果をあげる上でいくつかの課題が明らかになったため、これらの課題について改善方法を検討することとした。 ○情報科学部においては、平成 24 年度に引き続き「CALL 英語集中」を「e ラーニング英語」として時間割に組み込んで実施し検証を行った。その結果、時間割に組み込む前と比較して、効果的な学習方法が定着し、TOEIC の伸びにもプラスの影響があることが再確認された。 以上のように、全学共通教育の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			<b>小項目評価</b> ○平和に関する教育を推進するため、全学共通系科目である広島・平和科目（5 科目）について、平和研究所の教員 5 名が 4 科目を担当したほか、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」を、同研究所の教員 3 名が担当した。 ○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、受講者へのアンケート調査の結果を踏まえたカリキュラム内容の見直しを行い、平成 26 年度講座において、国際学部から「紛争解決論」関連、平和研究所から「朝鮮半島における安全保障問題」関連といった新しい講義を取り入れることを内容とするカリキュラムの見直しを行った。 ○多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促すため、1 月に、教職員を対象として異文化に触れることができる行事の調査を実施し、その結果に広島市が実施している関連行事の情報を加え、ウェブサイト及び学内掲示により学生に情報提供した。 ○学生が国際機関や国際的 NGO 等で活躍する人材と交流する機会として、国際的に活躍する者を講師とする講演会や公開講座等を計 9 回実施した。 以上のように、特色ある教育を充実するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。	<p>す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p><b>ウ 学部専門教育（小項目）</b></p> <p>(ア) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>b 情報科学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等について学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p>	<p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p> <p>○アンケート結果等を踏まえた新教育課程の見直しに係る検討</p> <p>○学生に対するアンケート調査の実施</p> <p>○学科配属に関するアンケート調査の実施</p> <p>○アンケート結果を踏まえた学科配属の見直しに係る検討</p> <p>○卒業生が就職した企業等にヒアリング、アンケート調査を実施</p> <p>○ヒアリング及びアンケート結果を踏まえた教育内容の改善に係る検討</p> <p>○キャリア形成支援科目「情報と職業」を自由</p>	<p>評価理由等</p>			
			<p><b>小項目評価</b></p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり国際学部及び情報科学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学部では、平成 25 年度の卒業生を対象とした教育課程に関するアンケートを実施し、結果の分析を行った。国際学部の 4 年間の教育について「非常に満足」、「ある程度満足」が 86%を示したが、国際化や語学教育の充実を求める意見が多かったことを踏まえ、語学研修の更なる充実が必要と判断し、ハバロフスク極東国立人文大学（ロシア）への短期語学研修を実施した。また、新たにハワイ大学マノア校（アメリカ）への英語の短期語学研修を実施するための計画を進め、平成 26 年度から開始することとした。多数の学生の参加を促すため、いずれも学部専門科目として単位認定を行うこととした。</p> <p>②情報科学部では、1 年次生及び 3 年次生に対し、一括募集及び学科配属に関するアンケート調査を実施した。多くの学生は、現在の方法が良いと回答した。アンケート結果を踏まえ、学科配属対象の学生に各学科の特色や教育内容をより丁寧に伝えるため、学科説明会の時間の拡大や各学科の研究室を見学できる期間の設定を行った。また、情報科学研究科研究室紹介展及び研究室紹介トークイベント（全 4 回）を実施し、学生への情報提供に努めた。また、情報科学部独自の取組として、就職情報関連企業による理系学生向け就職ガイダンスを実施し、2 回の開催においていずれも約 140 名の学生が参加した。更に、大学院進学予定の学部生に対し、外部講師を招いた実践的な集中英語研修を平成 24 年度に引き続き開講した。</p> <p>以上のように、学部専門教育の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明確に示すため、「平和学」の構築を実現する。</p>	<p>c 芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p> <p><b>エ 大学院教育（小項目）</b></p> <p>(7) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学研究科では、専門基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能</p>	<p>科目から選択科目に変更</p> <p>○新規科目の開設</p> <p>○組込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムによる教育効果の評価、改善</p> <p>○プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化のための教育内容の評価</p>	<p>小項目評価</p> <p>○大学院全研究科共通科目に「科学技術と倫理」を開講し、実施した。</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、以下のとおり大学院教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①「平和学」の学位（博士）授与のためのカリキュラムに基づいたプログラムを開始した。また、「ロシア政治外交論Ⅰ・Ⅱ」を、英語による履修が可能な平和学専門科目として追加し実施するとともに、平成 26 年度から平和学コア科目の「広島と核」を「HIROSHIMA and The Nuclear Age」に変更して英語による講義に切り替えることとし、英語による履修が可能な「平和学」科目の充実を図った。</p> <p>②情報科学研究科では、組込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムについて、平成 24 年度に引き続き「組込みシステム開発プロジェクト特論」の講義を英語で実施し、講義資料を正確かつ分かりやすいものに改善した。また、平成 26 年度以降の開講形態についての検討を行い、組込みソフトウェア関連科目の内容・開講時期及び担当者について見直しを行うこととした。更に、大学院生及び大学院進学予定の学部生を対象とした集中英語研修の実施時期を見直しての開催や、平成 24 年度に創設した学外研究活動旅費等に係る補助金給付制度の活用により、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の強化を図った。</p> <p>③芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するための「文化財保存学特講」を、7 月～9 月に集中講義として実施した。講義では、工芸（漆、金工）、彫刻、油絵、</p>			
			b	<p>〔評価理由〕</p> <p>大学院教育についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○平和学専門科目に英語による履修体制、情報科学研究科における英語による「組込みシステム開発プロジェクト特論」の改善、院生等の集中英語研修の開催、全国で切実になっている「文化財保存学特講」の開講など、大学院教育が将来を見据えて一段と充実した。</p> <p>○国際学研究科は「高度知識基盤社会」の成熟化を見据え、リカレント教育の重要性を認識し、社会人の積極的な受け入れに努めており、従来の大学院像から脱却しようとするこうした姿勢は評価できる。</p>	B	

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 教育方法の改善 各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。	<p>力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p> <p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(9) 全学的な協力体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究科が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p> <p>(2) 教育方法の改善</p> <p><u>ア 授業内容及び授業方法の改善 (小項目)</u></p> <p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等の FD 活動 (Faculty Development: 教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。) を積極的に行う。</p>	<p>○「文化財保存学特講」の実施</p> <p>○「平和学」の学位(博士)授与のためのカリキュラムに基づいたプログラムの開始</p> <p>○英語による履修が可能な「平和学」科目の内容の充実</p> <p>○学生・教員に対する授業アンケートの実施</p> <p>○授業改善に関する研修会 (FD 研修会) の開催</p>	<p>現代美術の保存修復を取り上げたほか、情報科学研究科の教員が 3D レーザー計測と分析演習について指導を行った。また、金刀比羅宮(香川県)宮内の文化財、文化再生プロジェクトを見学して講義を受けるなど、授業内容の充実を図った。</p> <p>以上のように、専門分野において優れた研究能力と実践的な技能を身に付けた学生の育成を図るための取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、7月～9月(前期)及び1月～2月(後期)に学生及び教員に対し授業アンケートを実施した。また、授業改善や教育活動に関する FD (Faculty Development: 教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。) 研修会を開催した。</p> <p>以上のように、授業内容及び授業方法の改善のための取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>授業内容及び授業方法の改善についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整備する。</p> <p>さらに、授業科目の到達目標と成績評価基準を明示するとともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。</p>	<p><b>イ 学習環境及び学習支援体制の整備（小項目）</b></p> <p>(7) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。</p> <p>(4) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。</p> <p>(9) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。</p> <p><b>ウ 成績評価システムの整備（小項目）</b></p> <p>(7) 成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、GPA（Grade Point Average：履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。）の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。</p> <p>(4) 芸術学部では、教育効果</p>	<p>○教育研究活動のデジタルアーカイブ化</p> <p>○自習室等のパブリックスペースの整備仕様の作成</p> <p>○データベースの作成、</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○インターネットを通じて、時間、場所を選ばず授業の補習・復習を可能とする講義のアーカイブ化の試行として、「いちだい知のトライアスロン」における本学教員の出張講座及び本学主催の講演会を撮影し、ウェブサイトに掲載して学内に向けて公開した。また、県立広島大学との連携公開講座等、本学教員の担当する講義や講演会についても撮影を行い、講義資料とともにウェブサイトに掲載し、学内に向けて公開した。</p> <p>○学生の自習スペースを確保するため、附属図書館内に対話学習が可能なラーニングコモンズを整備することとした。また、学生会館内に、昼食時以外に学生が自習や相談を行うことができる場所を整備するため、学生食堂等の運営者と協議を行い、学生会館のリニューアルに係る基本方針を決定した。</p> <p>以上のように、学習環境及び学習支援体制を整備するための取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学習環境及び学習支援体制の整備についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p><b>小項目評価</b></p> <p>芸術学部では、平成 24 年度までの芸術資料館収集資料から卒業制作優秀作品を中心とした約 100 点について、市販のデータベースソフトウェアを使用して試作データベースを作成し、レコード項目の整理・検討を進めた。そのデータベースについて、学内での公開を行うとともに、一部を Web 上で一般公開した。</p> <p>以上のように、教育効果を測る指標とするためのデータベースの本格運用に向けた優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>成績評価システムの整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○成績評価の仕組みを「学部単位」で変更するとなると、なかなかまとまらないと思うが、芸術学部では斬新な改革が行われた。</p> <p>○芸術学部の場合、実際に制</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
(3) 積極的な広報と学生の確保 広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。	(3) 積極的な広報と学生の確保 <u>ア 積極的な広報（小項目）</u> (7) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。 (4) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。 (9) 大学院案内の内容を見直すとともに、英語版を作成する。 (5) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）、シンボルデザイン等を作成する。 <u>イ 学生の確保（小項目）</u> (7) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修し	試験運用を踏まえたフォーマットの見直し  ○オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等におけるアンケート調査の実施 ○アンケート結果の分析、分析結果の広報活動への反映				作した作品の内容は、従来の成績評価では把握することが容易ではないことから、データベースの運用に係る取組は評価できる。	
			<u>小項目評価</u> ○6月に開催した高校進路指導担当教員大学説明会及びプレ・オープンキャンパス、8月に開催したオープンキャンパスにおいて、本学に対するイメージ等についてのアンケート調査を実施した。また、アンケート結果の分析をより効果的に実施するため、アンケート項目の表現の見直しを行った。 ○アンケート結果の経年変化を踏まえた分析の結果、本学の志望者は本学での学びの内容に高い関心を持っていることが分かった。学びのイメージをより具体的に広報するため、平成26年度のミニ・オープンキャンパスを、授業体験を主体としたライブキャンパスに変更して実施することにした。また、受験情報サイト「夢ナビ」に本学教員の講義情報33件を掲載するとともに、広報誌に研究紹介の特集記事を掲載した。 以上のように、アンケートの分析を基に、本学の学びの内容を具体的かつ積極的に広報するための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 積極的な広報について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 【コメント】 ○少人数教育の効果的広報宣伝を。 ○この取組を、改革のモデルにしても良い。	A	
			<u>小項目評価</u> ○芸術学研究科では、大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示を実施し、大学院での研究内容を具体的に説明し、大学院生の研究成果を学部生が身近に観ることのできる場を設けた。 【取組実績】	b	【評価理由】 学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B	

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<p>やすい環境を整備する。</p> <p>(イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。</p> <p>(ウ) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。</p>		<p>○大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示の実施</p>	<p>&lt;大学院ガイダンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時：進学希望学生を対象とした担当教員によるガイダンス（日本画・油絵・彫刻専攻）</li> <li>・ 7 月：学部生を対象としたプレ修了制作作品のプレゼンテーション（造形計画専攻）</li> <li>・ 7 月：大学院作品展示と公開講評（染織造形）</li> <li>・ 7 月：旧日本銀行広島支店での院生作品の展示（視覚造形）</li> <li>・ 10 月：大学院進学ガイダンス（日本画専攻）</li> <li>・ 11 月：博士前期課程 芸術理論研究分野説明会</li> <li>・ 12 月：大学院作品展示と公開講評（染織造形）</li> <li>・ 12 月：大学院進学ガイダンス（彫刻専攻）</li> <li>・ 12 月：「展示演習」（大学院生の展示を学部生に見せる）（日本画専攻）</li> </ul> <p>&lt;芸術資料館における作品展示&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月：「新収蔵作品展」</li> <li>・ 6 月：「卒業・修了優秀作品展Ⅰ」において博士前期課程の大学院生の作品を展示</li> <li>・ 7 月：「卒業・修了優秀作品展Ⅱ」において博士前期課程の大学院生の作品を展示</li> <li>・ 12 月：「時を超えてⅢ未来へ繋ぐ模写の可能性」において博士前期・後期課程の大学院生の作品を展示</li> <li>・ 1 月：「博士本申請審査作品展」</li> <li>・ 3 月：「第 16 回卒業・修了作品展」において博士前期課程の大学院生の作品を展示</li> </ul> <p>以上のように、学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
<p>(4) 教育実施体制の整備</p> <p>学生の多様化や社会の変化に速やかに対応するとともに、広島市立大学の教育に関する目標を実現するために必要な教育実施体制を整備する。</p>	<p>(4) 教育実施体制の整備</p> <p><u>ア 教職員の配置等(小項目)</u></p> <p>(7) 大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中長期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施す</p>		<p>○ORA の導入に係る検討</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○他大学の RA 制度実施要領等の調査研究を行うなど、引き続き RA の導入に係る検討を行った。その結果、学内における既存の教育研究補助制度（ティーチングアシスタント、実習補助員及び非常勤助教）との整合性や改正労働契約法の施行（有期労働契約が繰り返し更新されて通算 5 年を超えた場合の労働者の申込みによる無期労働契約への転換）及び学部間での RA に対するニーズの差があることを踏まえ、RA の全学導入はそぐわないものと判断した。そのため、既存の</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>教職員の配置等についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ORA 及び TA 制度は大事な課題なので、迅速に処理して</p>	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>るため、ティーチングアシスタント（大学院生が教育の補助を行う制度をいう。）、リサーチアシスタント（大学院生が研究の補助を行う制度をいう。）等の教育支援体制を整備、拡充する。</p> <p><b>イ 教育環境の整備（小項目）</b></p> <p>(7) 学生の多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの共同開催等に取り組む。</p> <p>(イ) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。</p> <p>(ウ) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。</p> <p><b>ウ 芸術情報の利用環境の整備（小項目）</b></p> <p>(7) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備する。</p> <p>(イ) 学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、芸術資料館の企画等による美術鑑賞事業を実施する。</p>	<p>○イベントの共同開催</p> <p>○所蔵品のコンテンツの充実</p> <p>○美術鑑賞事業の実施</p>	<p>制度の活用など、別の手段による教育支援体制の整備・拡充を検討していくこととした。</p> <p>以上のように、教職員の配置等の取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>ほしい。</p>	
			<p><b>小項目評価</b></p> <p>○各附属施設間の連携を強化し、学生の多様なニーズ等に的確に対応するための取組として、6月及び12月の語学センターでの映画上映会にあわせて、附属図書館で関連した展示やトークイベントを行う共同事業を実施した。また、10月に芸術資料館において開催した「新任教員作品展」において、附属図書館がiPad端末を貸し出し、芸術資料館が作品の解説等に関するコンテンツを提供することにより、来場者の作品鑑賞を支援した。</p> <p>以上のように、教育環境の整備について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>教育環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p><b>小項目評価</b></p> <p>○新たに作成した芸術資料館の新収蔵作品8点の画像及びデータをウェブサイトに掲載し、芸術資料館収蔵作品データベースのコンテンツを充実させるとともに、研究・教育への活用等のため、金工作品50点の高密度デジタル画像撮影を行った。</p> <p>○7月以降2回にわたり「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、広島県立美術館、広島市現代美術館との共催による講演会を実施した。</p> <p>以上のように、芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○データベースの整理については評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 学生への支援に関する目標 すべての学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で適切な支援を行う。	<b>2 学生への支援（大項目）</b>  <u>(1) 学習支援（小項目）</u> 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。（再掲）  <u>(2) 日常生活支援（小項目）</u> 学生の日常生活を支援するため、学生会館の機能の拡充、大学周辺への店舗の誘致等に取り組む。  <u>(3) 健康の保持増進支援（小項目）</u> 学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウ	○学生会館のリニューアルに係る基本計画の策定	<b>大項目評価</b> 大学の入口（入試）から出口（就職）までの一貫した学生の指導・支援体制を強化するため、入学試験・就職担当副理事を配置するとともに、キャリア教育の一層の推進と就職支援の更なる強化のため、平成 26 年度からキャリアセンターを設置することとした。また、学生の出身地等での就職活動を支援するため、全国各地の 10 大学との連携による「就職支援パートナーシップ制度」への参加を決定した。 経済的支援においては、平成 26 年度からの待待生の選考開始に備えて、要綱を作成した。 以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	<b>【評価理由】</b> 学生への支援全般についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
			<b>小項目評価</b> 学生が自習やグループ学習等を行うための空間を整備するため、学生会館のリニューアルに関する検討を行い、次のとおりリニューアルの基本方針を決定した。 <b>【基本方針】</b> ・学生食堂内に昼食時以外に学生が自習や歓談をできる場所を整備する。 ・喫茶に関しては、学生食堂との差別化を図り、喫茶機能を明確化するための整備を行う。 ・学生会館 2 階のオープンスペースに学生が自習や歓談をできる場所を整備する。 以上のように、学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	<b>【評価理由】</b> 学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	ンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。					
	<p><b>(4) 就職支援 (小項目)</b></p> <p>ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。</p> <p>イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。</p>	<p>○就職指導・支援体制の整備</p> <p>○就職関連情報の学生への提供方法の見直し</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○大学の入口（入試）から出口（就職）までの一貫した学生の指導・支援体制を強化するため、入学試験・就職担当副理事を新たに配置した。また、本学のキャリア教育の一層の推進と就職支援の更なる強化のため、平成 26 年度にキャリアセンターを設置することとした。</p> <p>○全国各地の 10 大学がネットワークを構築し学生の出身地等への就職活動を支援する「就職支援パートナーシップ制度」に参加することとした。</p> <p>○学生へ就職関連情報を提供する「就職ガイダンス」について、新たにキャリア形成・実践科目の「キャリアサポートベーシック」として時間割の中に組み込んで実施した。就職ガイダンスの開催時期が月曜日の 1 時限目に定まったことにより、学生が継続して受講しやすくなり、就職への意識付けをより高めることができた。</p> <p>以上のように、本学の就職指導・支援を大きく強化する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
	<p><b>(5) 課外活動支援 (小項目)</b></p> <p>学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。</p>					
	<p><b>(6) 経済的支援 (小項目)</b></p> <p>優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。</p>	○特待生制度の導入	<p><b>小項目評価</b></p> <p>特待生制度を導入するとともに、平成 26 年度からの特待生の選考開始に備え、要綱作成等の準備に取り組んだ。</p> <p>以上のように、経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>学生の経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
	<p><b>(7) 留学生支援 (小項目)</b></p> <p>留学生の宿舎を確保するため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支</p>	<p>○留学生の宿舎等の整備計画の策定</p> <p>○留学生の民間アパートへの入居あっせん</p> <p>○機関保証制度の留学生</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○留学生の滞在施設の確保とともに、日本人学生の国際感覚涵養という新たな視点から、留学生と日本人学生が共同生活を行う「国際学生寮」の整備に向けた検討を開始した。他大学への視察などを基に、設置目的、利用形態、必要な設備等の仕様などについての考えをまとめ、国際学生寮の整備に係る基本方針を決定した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>留学生の支援のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p>	B



中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(7) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。</p> <p>(イ) 科学研究費補助金等外部資金の申請率、採択率の向上を図る。</p> <p>(ロ) 外部資金を含めた研究費を弾力的かつ効果的に執行するための制度を導入する。</p> <p>(エ) 国際学部及び国際学研究科では、研究活動における学内外との連携を強化するため、客員研究員や共同研究者のための研究スペースを確保する。</p> <p>(オ) 情報科学部及び情報科学研究科では、社会へ発信する知的財産を効率的に創出するため、大学として取り組むべき基盤的研究及び時代のニーズに適合した先端的・革新的なプロジェクト研究に対し、研究費等を重点的に配分する。また、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究に対し、教員研究費の一部を毎年度重点的に配分する。</p> <p>(カ) 芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に推進する。</p>	<p>○外部資金獲得研修会の開催</p> <p>○プロジェクト研究、共同研究に対する教員研究費の重点配分</p> <p>○外部資金の獲得による研究発表活動の促進</p> <p>○教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動の積極的な推進</p>	<p>科学研究費補助金の申請支援策として、8月に主に科研費に応募したことがない教員や、申請に慣れていない若手の教員を対象に、申請の手順や申請書の書き方をわかりやすくまとめたマニュアル「科研の手引き」を作成し配付した。また、新たに社会連携センター内に相談窓口を設け、個別の教員からの相談に対しきめ細かな対応を行った。更に、採択実績の豊富な教員をアドバイザーとし、申請書の書き方等の相談を行う「科学研究費補助金申請アドバイザー制度」を導入した。</p> <p>【科学研究費補助金申請率等実績：（ ）は平成 24 年度実績】          科研費申請率 65.6%(64.2%)、採択率 50.7%(54.7%)、獲得金額(間接経費を含む。)132,250 千円 (129,220 千円)          そのほか、国（総務省、文部科学省、文化庁）及び広島県より受託研究及び補助金の採択を受けた。</p> <p>【内訳】          総務省 SCOPE(2 件、15,948 千円)、文部科学省 (1 件、14,000 千円)、文化庁 (1 件、14,000 千円)、広島県 (1 件、8,464 千円)</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究、社会連携、外部資金獲得を促進する研究に対し、教員研究費の一部を重点的に配分した（社会連携関係 (1 件)：895 千円、外部資金関係 (1 件)：200 千円)。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に実施した。</p> <p>【活動実績：（ ）内は平成 24 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による外部資金を用いた展覧会、論文発表、講演会活動等の研究発表件数：44 件 (54 件)</li> <li>・教員による学内特定研究費を用いた展覧会、論文発表、講演会活動等の研究発表件数：12 件 (7 件)</li> <li>・教員による自主的な個展、グループ展、講演会活動等の研究発表件数：190 件 (143 件)</li> <li>・学生による外部資金を用いた展覧会等研究発表件数：5 件 (4 件)</li> <li>・学生による自主的な個展、グループ展等の研究発表件数：53 件 (7 件)</li> </ul> <p>○平和研究所では、新たに 3 つの研究会（「核・軍縮研究会」、「人間の安全保障研究会」、「信頼安全保障醸成措置 (CSBMs) 研究会」）を設立し、外部講師を招聘しながら定期的に研究会を開催した。また、市民講座及び研究フォーラムを開催し、プロジェクト研究等への学</p>		<p>優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	

中期目標	中期計画	平成25年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	(キ) 平和研究所では、研究活動の活性化を図るため、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を促進する。	○学外研究者の受入促進	外研究者の積極的な参画を促進した。 以上のように、外部資金の積極的な獲得と活用など、研究の活性化のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
	イ 研究成果の普及及び還元 (小項目)		<b>小項目評価</b>	a	〔評価理由〕 研究成果の普及及び還元について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○努力を正当に評価し、自己評価に従うが、研究水準が十分に高いかどうか、引き続き自己精査に励んでほしい。	A
	(ア) 国際学部及び国際学研究科では、研究成果普及の一環として平成20年度(2008年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行する。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。	○国際学部叢書の年次刊行 ○「広島国際研究」のホームページ公開	○国際学部及び国際学研究科では、国際政治・平和グループ所属の教員10名の共著により、国際関係の理論や歴史、地域研究などに関する国際学部叢書第6巻「理論と地域からみる国際関係」を刊行した。また、12月に刊行した学部紀要「広島国際研究」(第19巻)のうち、採択論文について、紀要の刊行に合わせて大学リポジトリサイトを通じて公開した。 ○情報科学部及び情報科学研究科では、イノベーション・ジャパン2013、リエゾンフェスタ2013、インテレクチャル・カフェ広島、市役所での地域貢献事業の研究紹介など、各種イベントへの出展を行った(出展件数74件(平成24年度:59件))。また、JST(独立行政法人科学技術振興機構)、NICT(独立行政法人情報通信研究機構)、SCOPE(戦略的情報通信研究開発推進事業:総務省の情報通信技術(ICT)分野の研究開発における競争的資金配分事業)等国のプロジェクトの受託研究、共同研究を実施したほか、研究成果に係る特許出願等の手続を行った。 ○芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において「新収蔵作品展」、「卒業制作優秀作品展Ⅰ」及び「卒業制作優秀作品展Ⅱ」の展示会、更に、大学院研究成果の発表展示会を開催した(入場者数計2,218名)。 ○平和研究所では、10月に平和研究所の紀要を創刊したほか、研究員の出版活動や国際シンポジウムの開催、被爆70周年へ向けた「平和・安全保障事典」(仮称)の編集作業への着手など、学術研究成果の社会への積極的な普及に取り組んだ。 ○附属図書館では、博士論文等の機関リポジトリ登録を実施した。また、広島県大学共同リポジトリのシステム更新に本学教員が参画し、新たなシステム構築を行った。 以上のように、研究成果の普及及び還元のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
	(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。	○研究公開イベントへの出展 ○特許出願、共同研究を通じて研究成果の社会への普及・還元				
	(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。	○芸術資料館における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催				
	(エ) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や	○出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会、紀要、ニューズレター				

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を図る。</p> <p>(4) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）により公開する。</p> <p><u>(2) 研究体制の強化（小項目）</u></p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。</p>	<p>等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p> <p>○博士論文等の機関リポジトリ登録の実施</p> <p>○日本軍縮学会、日本平和学会等、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動の促進</p> <p>○データベース横断検索ソフトの計画的導入に係る検討</p> <p>○収集方針に基づく電子ジャーナル等の充実</p>				
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○平和研究所では、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動を推進した。</p> <p>【実績：（ ）内は平成 24 年度実績】</p> <p>著書・論文の発表：23 件（20 件）、科学研究費補助金の獲得：5 件（5 件）、学会・研究報告等：23 件（17 件）、学会誌等の編集責任者：3 件（5 件）</p> <p>○附属図書館では、平成 26 年 10 月の図書システムリプレイスに併せ、データベース横断検索ソフト（リンクリゾルバ）を導入することに決定し、附属図書館ウェブサイト上でトライアルを実施し、意見募集と PR に努めた。また、10 月に「日経 BP 記事検索」、「中国新聞経済データベース」を導入し、電子ジャーナル・データベースの本数を 14 本から 16 本に増加させた。</p> <p>以上のように、研究体制を強化するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会	4 <u>社会貢献（大項目）</u>		<p><u>大項目評価</u></p> <p>中区大手町にサテライトキャンパスを開設（平成 25 年 10 月）し、市大英語 e ラーニング講座等の各種公開講座やセミナーを開催するなど、大学の市内中心部における活動拠点機能を強化した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>連携センターを中心的な窓口として、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。また、広島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>(1) <u>生涯学習ニーズへの対応</u> (小項目) ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育（社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。）を推進するため、社会人講座等の充実を図る。 イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライト</p>	<p>○公開講座の開催、市民講座への講師派遣 ○改善策の検討・実施  ○サテライトキャンパスの設置</p>	<p>生涯学習ニーズへの対応では、県立広島大学との連携公開講座の新規実施などにより、公開講座の受講者数が大きく増加した。地域産業界との連携では、社会連携センターによる働きかけの強化により、受託研究及び共同研究等の件数・研究費が増加した。国及び地方自治体等との連携では、各種審議会委員への就任、講演会への講師派遣などを行った。また、行政機関との共同事業においては、件数及び事業経費がともに前年度を上回った。更に、本学の英語 e ラーニングプログラム等を活用した広島市職員の英語力養成研修では、平和記念式典に参列する外国要人アテンド対応英語力養成講座を実施するなど、広島市職員の研修機関としての役割を果たした。 芸術学部及び芸術学研究科では、県内外において、内容の充実した多くの地域連携プロジェクトを展開した。 また、小学生を対象とした「ひろしまコンピュータサイエンス塾」、中高生を対象とした「芸術学部サマースクール」、情報科学研究科教員が高等学校に出向く体験授業を実施し、小中高等学校等への学習支援にも引き続き取り組み、高い評価を受けた。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p><b>小項目評価</b> ○新たに県立広島大学との連携公開講座を実施したほか、以下のとおり公開講座を開催するとともに、市民講座への講師派遣を行った。 <b>【開催実績】</b> ①県立広島大学との連携講座（9月～10月開催：参加者数延べ148名、11月開催：331名） ※新規開催 ・社会人のための英語再チャレンジ（9月～10月） ・ひろしま学を考える（11月） ②国際学部公開講座「防災ゲーム クロス・ロードから多文化共生を考える」（11月17日開催：参加者数26名） ③情報科学部公開講座 ・講演会（11月19日開催：参加者数24名） ・連続講義（6月、8月開催：参加者数40名） ・高校生による情報科学自由研究（7月、8月開催：参加者数22名） ・パソコン活用術（7月31日開催：参加者数31名）</p>	a	<p>【評価理由】 生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	キャンパスを設置する。		<p>④芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般向け（日本画、油絵、版画、彫刻、立体造形、漆造形：7月～9月開催：参加者数 84 名）</li> <li>・サマースクール（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：7月、8月開催：参加者数 73 名）</li> <li>・社会人向け工芸・版画技能講座（金工、漆、染織、版画：4月～1月開催：参加者数 22 名）</li> </ul> <p>⑤シティカレッジへの講座提供（国際、情報、芸術から見たネットワークキングの魅力：11月開催：参加者数延べ 68 名）</p> <p>⑥市大英語 eラーニング講座（7月～10月実施：受講者数 46 名、10月～12月実施：受講者数 61 名） 受講者数計 976 名（平成 24 年度：559 名） 開催回数計 13 回（平成 24 年度：10 回）</p> <p>○10月に広島市内中心部にサテライトキャンパスを開設し、市大英語 eラーニング講座等の各種公開講座やセミナーを開催した。</p> <p>【施設概要】</p> <p>①セミナールーム 1（60 席）、②セミナールーム 2（50 席）、③PC ルーム（33 席）、④小教室（18 席）、⑤待合ロビー、⑥応接室</p> <p>以上のように、公開講座や市民講座への講師派遣などで質の高い取組を実施し、あわせて、サテライトキャンパスの開設により本学の市内中心部における活動拠点機能を大きく向上させ、生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>(2) 「産学公民」連携の推進</p> <p><b>ア 地域産業界との連携（小項目）</b></p> <p>(7) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組む。</p> <p>(4) 先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリー</p>	<p>○受託研究・共同研究の推進</p> <p>○技術相談支援等の推進</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に取り組んだ。</p> <p>【実績：（ ）内は平成 24 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受託研究：①件数：20 件（16 件） ②研究費計：33,738 千円（13,900 千円）</li> <li>・共同研究：①件数：14 件（13 件） ②研究費計：6,021 千円（16,214 千円）</li> <li>・補助金：①件数：3 件（1 件） ②研究費計：36,464 千円（13,000 千円）</li> </ul> <p>※金額は直接経費のみ</p> <p>○以下のとおり、技術相談支援等の推進に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域自治体や産業界への技術相談・支援数</li> </ul>	a	<p>【評価理由】</p> <p>地域産業界との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成25年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ダーシップを発揮する。</p> <p><u>イ 国、地方自治体等との連携（小項目）</u></p> <p>(7) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p> <p>(ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢献する。</p> <p>(エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美</p>	<p>○附属機関等の委員への就任、講師派遣</p> <p>○行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施</p> <p>○広島市職員等を対象とした研修の実施</p> <p>○「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の調査や展示等への学術支援等</p> <p>○地域美術館との連携</p>	<p>広島県 4件 広島市 11件 その他 2件</p> <p>・ICT関連機関への委員就任（10機関） 水道施設情報管理システムの構築及び運用・保守業務総合評価審査委員会の特別委員他</p> <p>・株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス及び株式会社ソフトバンクとのWi-Fi設備の共同利用に関する共同研究</p> <p>・広島市企画総務局情報政策部情報政策課からの協力研究員の受入れ（2名）</p> <p>以上のように、地域産業界との連携を積極的に推し進め、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○附属機関等の委員への就任及び講師派遣を行った。</p> <p>【実績：（ ）内は平成24年度実績】</p> <p>・広島市等の審議会委員等への就任：125機関（119機関） 【学長・副学長等：24機関（16機関）、国際学部：24機関（25機関）、情報科学部：21機関（38機関）、芸術学部：44機関（33機関）、平和研究所：12機関（7機関）】</p> <p>・講演会への講師派遣：34件（36件） 【国際学部：13件（11件）、情報科学部：14件（12件）、芸術学部：7件（13件）】</p> <p>○広島市その他行政機関との共同事業を実施した。また、広島市等の行政課題の解決に当たり、最も依頼の多い芸術学部がその取組を計画的かつ効果的に遂行し、芸術活動の一層の充実を図っていくことを目的に、「芸術学部の未来を考える会」を設置し、大規模プロジェクト等の課題解決に向けた検討等を具体的に進めていくこととした。</p> <p>【実績：（ ）内は平成24年度実績】</p> <p>件数：16件（13件）、事業経費：16,016千円（5,945千円） （内訳）①広島市関係分：受託研究、市政貢献プロジェクト、社会連携プロジェクト【件数：14件（10件）、事業経費：15,237千円（2,700千円）】 ②その他行政機関関係分（広島県、坂町）：受託研究、社会連携プロジェクト【件数：2件（3件）、事業経費：779千円（3,246千円）】</p> <p>○広島市研修センターと連携し、広島市職員を対象に英語力養成を目</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>国、地方自治体等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。</p> <p>(オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島市の産業振興に貢献する。</p> <p>(カ) 地域社会等と連携し、地域展開型の芸術プロジェクトを積極的に推進する。</p>	<p>○ICT 関連機関への委員就任</p> <p>○ICT 関連講演会への講師派遣、共同事業の実施</p> <p>○地域自治体や産業界への技術相談支援、イベントへの ICT 活用技術支援</p> <p>○地域展開型の芸術プロジェクトの実施</p>	<p>的とした本学の英語 e ラーニングプログラムを活用した研修を実施した。具体的研修内容としては、英語基礎力をアップするための研修 (A コース) と 8 月 6 日の平和記念式典に参列する外国からの要人アテンドに対応できる程度の英語力を養成する研修 (B コース) の 2 つを実施した。英語学習を始める機会を提供でき、受講者からも再度受講したいとの高い評価を受けた。また、大学事務職員 (広島市からの派遣職員) を対象にした英語 e ラーニングプログラムによる英語力養成研修についても引き続き実施した。</p> <p>○平和研究所では、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。また、8 月には、平和首長会議において、広島市及び公益財団法人広島平和文化センターと「光の肖像」展 (被爆者の肖像画の展示会) を共催した。</p> <p>【実績：( ) 内は平成 24 年度実績】</p> <p>①審議機関等の委員等への就任：11 機関 (3 機関)</p> <p>②「広島・長崎講座」への協力：8 講座、42 回 (13 講座)</p> <p>③市民向け講座への協力：18 回 (15 回)</p> <p>○平成 25 年度にリニューアルして開催された第 1 回新県美展 (第 65 回広島県美術展) においては、本学教員が審査員や招待作家として参加したほか、学生も受賞するなど、展覧会の活性化に寄与した。</p> <p>○ICT をはじめとした技術支援については、本学と広島市、広島市民病院、広島市内・県内企業の産学官医連携により「広島発高齢者支援システム開発プロジェクト推進協議会」を組織し、本学教員が開発した外耳用ウェアラブルコンピュータ「みみスイッチ」を用いた高齢者見守り支援システムの製品化を目指す共同事業に取り組んだ。また、株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス及び株式会社ソフトバンクの 2 社との Wi-Fi 設備の共同利用に関する共同研究や、広島市企画総務局情報政策部情報政策課から 2 名の協力研究員を情報処理センターに受け入れ、情報ネットワークの異常トラフィック監視やセキュリティ対策についての共同事業を実施した。更に、広島市、広島県及び県市の関係団体等における ICT 関連機関の委員に就任した (10 機関) ほか、地域自治体及び産業界への技術相談支援並びにイベントへの ICT 活用支援を行った (26 件)。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、広島県内のみならず広島県外においても、教員主導、学生主導の地域連携プロジェクト 24 件 (平成 24 年度 28 件) を実施した。</p> <p>【実績】</p>			

中期目標	中期計画	平成25年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>広島市安佐動物公園ビジュアル環境再生に伴う公共美術の研究（7月、9月、12月）、神石高原アートプロジェクト「風の宴」仙養ヶ原（8月）、平和首長会議総会及び平和文化イベントでの「光の肖像」展（8月）、キッズキャンパス（8月、11月、12月）、はつかいち×メソッド（9月）、国吉康雄作品模写プロジェクト（10月）、ART BASE 百島「100のアイデア、あしたの島。」（10月、11月）、対馬アートファンタジア2013（10月、11月）、しょうばらサーカス2013（10月、11月、12月、1月、2月、3月）、小河内小磨校後の利活用の検討（11月～）、基町フェニックスアートプロジェクト着手（11月～）。その他、広島赤十字・原爆病院賞、広島信用金庫日本画奨励賞及び清風会芸術奨励賞等地域の病院等との連携を実施した。</p> <p>以上のように、各学部等において、国、地方自治体等との連携を積極的に推進し、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p><b>ウ 学術機関及び研究機関との連携（小項目）</b></p> <p>(7) 国際学部及び国際学研究所では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターシップ等の充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」（平成21年度(2009年度)文部科学省採択事業）を推進し、情報科学、医学、工学の知識を</p>	<p>○共同研究、プロジェクト研究等への参画の推進</p> <p>○研究交流を通じた海外学術交流協定大学との連携強化</p> <p>○関係機関との連携による公開講座、インターシップの充実</p> <p>○情報医工学プログラムの評価、検証</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○国際学部及び国際学研究所では、国内外の研究者との共同研究、プロジェクト研究を引き続き実施した（共同研究59件、プロジェクト研究10件）。また、学術交流協定校である西京大学校（韓国）と連携し、「ワンアジアシンポジウム」を開催したほか、広島市関連団体や他の自治体等が主催する公開講座、講演等に教員が講師やパネリストとして参加した（38件）。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、情報医工学プログラム及び臨床情報医工学プログラムの実施・検証を行い、改善に向けた取組を行った。</p> <p>&lt;情報医工学プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年目のプログラムを実施中であり、本学が提供する講義の受講者数は37名であった。</li> <li>・本学から17名の学部生が医療系実習を受講した。</li> <li>・学部向け講義として「生体信号処理」を新規に開講した。</li> </ul> <p>&lt;臨床情報医工学プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなプログラムの提供を開始した。本学が提供する講義の受講者数は51名であった。</li> <li>・本学から29名の学部生が早期医療体験実習を受講した。</li> <li>・大学院向け講義として「医用ロボット学特論」を新規に開講した。</li> </ul> <p>&lt;両プログラム共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD研修会、合同合宿研修を実施した。</li> </ul>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学術機関及び研究機関との連携強化についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○是非強化していただきたい。特に海外研究機関との協働を真剣に開拓することが望まれる。</p> <p>○大変活発な活動だと思う。</p> <p>○芸術学部については、地域の美術館との連携強化だけでなく、その他の機関との連携も進めてほしい。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>有した人材を育成する。</p> <p>(d) 芸術学部及び芸術学研究科では、卒業修了制作展の開催等を通じ、広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(e) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流を積極的に推進する。</p>	<p>○広島市現代美術館における卒業修了制作展の開催</p> <p>○共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p>	<p>&lt;評価・検証&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修了・単位取得状況について評価・検証を実施した。情報医工学プログラムについては、4 年次履修生 5 名は全員修了し、2 年次で修了した履修生も 11 名あった。</li> <li>・臨床情報医工学プログラム（1 年次）については、早期医療体験実習において医用情報科学科の定員（30 名）にほぼ等しい履修者を得た。</li> </ul> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、地域の美術館との連携強化の一環として、広島市現代美術館において卒業・修了制作展を開催した（期間：3 月 5 日～3 月 9 日、出品者数：101 名、来場者数：2,353 名）。平成 25 年度から本学と広島市現代美術館との共催事業という位置付けになり、会場使用料が無料となるなど、広島市現代美術館との連携が強化された。</p> <p>○平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究等への学外研究者の積極的な参画を通じた研究交流を推進した。</p> <p>【共同研究会等の実施】 「核・軍縮研究会」「人間の安全保障研究会」など 12 件、18 回（平成 24 年度：2 件、9 回）</p> <p>【共同研究への参画】 「ひろしま復興・平和構築研究事業」など 18 件（平成 24 年度：2 件）</p> <p>【ワークショップ】 「信頼醸成措置に関する日韓ワークショップ」など 4 件、他大学からの参加 81 名（平成 24 年度：3 件、5 名）</p> <p>以上のように、各学部等において学術機関及び研究機関との連携強化に向けた取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<p><u>エ 小中高等学校等との連携</u> <u>（小項目）</u></p> <p>(7) 市内の小中高等学校に対する学習支援、教員のリフレッシュ教育（大学、大学院等の高等教育機関が、職業人に職業上の知識、技術を新たに修得させること</p>	<p>○市内の小中高等学校に対する学習支援の実施</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○小学生に情報科学の先端に触れる機会を提供する「ひろしまコンピュータサイエンス塾」、中学生を対象とした「芸術学部サマースクール」などを実施し、学習意欲に富む小中高生に対する学習支援・教育活動を行い、参加した児童・生徒から高い評価を得た。更に、情報科学研究科においては、研究科教員と高等学校教員が連携し、教員が高等学校に出向いて情報科学に関する一連の講義を行う体験授業を実施し、連携先高等学校（8 校）から高い評価を得た。</p>	a	<p>【評価理由】 小中高等学校との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】 ○必ずしも大学の本務ではないので、大学にとっての意</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>を目的とした事業をいう。)等に取り組む。</p> <p>(1) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。(再掲)</p> <p>(3) 社会連携センターの機能の充実</p> <p><u>ア 社会連携センターの体制整備(小項目)</u></p> <p>多様化する「産学公民」連携のニーズに迅速に対応し、効果的に事業を実施するための組織体制を整備する。</p> <p><u>イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援(小項目)</u></p> <p>(7) 展示会への出展やメールマガジンの配信等様々な広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行う。</p> <p>(4) 「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフ</p>	<p>○広島市職員等を対象とした研修の実施</p>	<p>○広島市研修センターと連携し、広島市職員を対象に英語力養成を目的とした本学の英語 e ラーニングプログラムを活用した研修を実施した。具体的研修内容としては、英語基礎力をアップするための研修(Aコース)と8月6日の平和記念式典に参列する外国からの要人アテンドに対応できる程度の英語力を養成する研修(Bコース)の2つを実施した。英語学習を始める機会を提供でき、受講者からも再度受講したいとの高い評価を受けた。また、大学事務職員(広島市からの派遣職員)を対象にした英語 e ラーニングプログラムによる英語力養成研修についても、引き続き実施した。</p> <p>以上のように、小中高等学校等との連携を強化するための取組を着実に実施し、いずれの取組も参加者等から高い評価を得たことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		<p>義を考え合わせながら進めることが望まれる。</p>	
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○展示会への出展等の広報活動や技術相談の実施等を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行った。</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>①展示会への出展件数：9件(平成24年度：6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月29日、30日：イノベーションジャパン2013出展(於：東京)</li> <li>・9月20日：中国地域さんさんコンソ新技術説明会(於：東京)</li> <li>・9月26日：呉くるま座交流会(於：広島)</li> <li>・9月30日：ひろしま産業振興機構主催企業意見交換会(於：本学岩城研究室)</li> <li>・10月23～25日：ひろしまIT総合展2013(於：広島)</li> <li>・11月20日：信用金庫合同ビジネスフェア(於：広島)</li> <li>・11月23日：エコイノベーションメッセ(於：広島)</li> <li>・12月12日、1月27日：インテレクチャル・カフェ参加(於：広</li> </ul>	b	<p><b>【評価理由】</b></p> <p>「産学公民」連携の強化や社会貢献の推進のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>フォーラム等を開催する。</p> <p>(ウ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。</p> <p>(エ) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>○学外研究機関との教育研究活動等の支援</p> <p>○社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>島)</p> <p>・1月31日：ビジネスフェア中国四国 2014 (於：広島)</p> <p>②社会連携コーディネーター、産学連携コーディネーターによる技術相談の実施</p> <p>・相談件数：83件 (平成24年度：75件) ※随時実施</p> <p>○「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催した。市役所での地域貢献事業発表会では、広島市の行政課題解決の事例について、本学教員及び関連部局職員双方による具体的な事例発表を行うとともに、展示会場のレイアウトについて、当事業の根幹となる①広島市との連携事業、②地域貢献・市民対象事業の展示をできるだけ会場の中心部に配置し、来訪者の興味を引くよう心掛けた。</p> <p>【開催実績：( ) 内は平成24年度実績】</p> <p>・9月19日：リエゾンフェスタ 2013 [来場者数：約150名、58機関 (約150名、56機関)]</p> <p>・12月3日：広島市立大学の地域貢献事業発表会 [来場者数：約150名 (約200名)]</p> <p>○学外研究機関と連携した教育研究活動等の支援においては、経済産業省・特許庁所管の独立行政法人工業所有権情報・研修館が行う「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に重点支援校として参画し、知的財産に関する課題解決への取組を進めた。更に、新たに文部科学省から採択を受けた補助事業「革新的イノベーション創出プログラム (研究リーダー：広島大学)」及び「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業 (事業責任者：広島大学)」に参画し、研究活動の一層の推進を図った。また、平和研究所においては、国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業実行委員会 (事務局：広島県) が実施した広島県・広島市連携事業「ひろしま復興・平和構築研究事業」に研究員が編集委員長・編集委員及び監修委員として加わり、広島市の復興研究の成果を報告書「広島の復興経験を生かすために一廃墟からの再生」(3月) にまとめた。</p> <p>○地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした教員による社会貢献活動を支援するため、「社会連携プロジェクト」を公募し、事業費を支援した。</p> <p>【実績：( ) 内は平成24年度実績】</p> <p>応募件数：6件 (12件)、応募総額：5,623千円 (10,584千円)</p> <p>採択件数：4件 (8件)、採択総額：2,018千円 (3,349千円)</p>			

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 国際交流に関する 目標 海外学術交流協定 大学との人材交流を 積極的に展開すると ともに、留学生への支 援体制の充実を図る。	<p><u>ウ 研究成果、学内資源等の活用（小項目）</u> 知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。</p> <p><u>エ 学生の育成（小項目）</u> 「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施し、学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせる。</p> <p><u>5 国際交流（大項目）</u></p>	<p>○知的財産の創出の推進</p> <p>○「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業の実施</p>	<p>以上のように、学部及び研究科等の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p><b>小項目評価</b> 知的財産の創出に取り組むとともに、7月に教職員を対象とした知的財産に係るセミナーを開催した。 【取組実績：（ ）内は平成24年度実績】 特許出願：19件（14件）、商標出願：4件（3件）、審査請求：2件（3件）、特許登録：7件（5件） 以上のように、実績が平成24年度を上回り、研究成果、学内資源の活用等のための優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	【評価理由】 研究成果、学内資源等の活用について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			<p><b>小項目評価</b> 「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施した。 【実績：（ ）内は平成24年度実績】 応募件数：7件（8件）、応募総額：601千円（725千円） 採択件数：6件（8件）、採択総額：383千円（537千円） うち1件（プロジェクト名「Hiroshima Peace Camp 2013」）は「学生による市政貢献プロジェクト」として採択（100千円） 以上のように、学生の育成に関する取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	【評価理由】 学生の育成についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
			<p><b>大項目評価</b> 国際交流の推進やグローバル人材育成の目的から、専任の職員（特任教員）を長とする「国際交流推進センター」を設置し、大学全体の国際化に取り組んだ。 学術交流協定については、新たにベルリン・フンボルト大学（ドイツ）第2理学部と本学情報科学部との学部間協定を締結した。また、平成26年度の協定更新へ向け、オルレアン大学（フランス）及び梨花女子大学校（韓国）との交渉を行い、おおむね合意に達した。 学生の派遣では、ガイダンスや事前研修の充実等に取り組んだ。また、派遣中の月報提出を義務付け、所属学部の学部長や指導教員との情報共有に努めた。 留学生の受入れでは、オリエンテーションの拡充、健康診断の受診及び国民健康保険加入の徹底、外国人研究生の月報提出の義務化による在籍・学習状況の正確な把握及び指導教員との情報共有、指導教員割当徹底、学生寮の留学生割当数の増加、留学生のための住居確保に引き続き取り組んだ。また、平成26年度に向けては、「HIROSHIMA and PEACE」及</p>	a	【評価理由】 国際交流全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>び「文化芸術交換留学プログラム」が独立行政法人日本学生支援機構による「海外留学交流支援制度」の奨学金に採択された。</p> <p>なお、慢性的に続く留学生の居住施設不足の抜本的な改善と、留学生との共同生活による本学学生のグローバル人材育成を目的とする国際学生寮の整備に係る検討を開始した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p><b>(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開</b> <u>(小項目)</u></p> <p>ア 各学部の特徴を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。</p> <p>イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。</p>	<p>○受入学生増加のための対応策の具体化・実施</p> <p>○協定締結に向けた相手校との具体的な交渉</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○「国際交流推進センター」を設置し、専任の特任教員（センター長）及び専任職員 2 名を配置し、派遣・受入れの体制強化を図るとともに、きめ細かな情報提供を行うなど、大学全体の国際化に取り組んだ。</p> <p>○学生の派遣では、ガイダンスや事前研修の充実等に取り組んだ。また、派遣中の月報提出を義務付け、所属学部の学部長や指導教員との情報共有に努めた。</p> <p>○留学生の受入れでは、オリエンテーションの拡充、健康診断の受診及び国民健康保険加入の徹底、外国人研究生の月報提出の義務化による在籍・学習状況の正確な把握及び指導教員との情報共有、指導教員割当徹底、学生寮の留学生割当数の増加、留学生のための住居確保に引き続き取り組んだ。</p> <p>○慢性的に続く留学生の居住施設不足の抜本的な改善と、留学生との共同生活による本学学生のグローバル人材育成を目的とする国際学生寮の整備に係る検討を開始した。</p> <p>○9月にベルリン・フンボルト大学(ドイツ)第2理学部と本学情報科学部との学部間学術交流協定を締結した。また、平成 26 年度のオルレアン大学(フランス)及び梨花女子大学校(韓国)との協定更新に向けた交渉を行い、おおむね合意に達した。新規協定締結に向けた取組では、ワインガートン教育大学(ドイツ)及びボンマス芸術大学(イギリス)との交渉を行った。学術交流協定校である西南大学(中国)へは、短期留学制度により学生を派遣した。</p> <p>以上のように、海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開を行ったことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>海外学術交流協定大学との人材交流について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○努力は評価できる。今後の課題として、英語による講義の増加、それによる学位授与システムの構築などがあり、教員採用計画もそれと連動させながら進めなければならなくなるので、そうした包括的な構想の中で努力を続けてほしい。</p>	A
	<p><b>(2) 留学生への支援体制の充実</b> <u>(小項目)</u></p> <p>ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備</p>	<p>○留学生受入プログラムの見直し</p>	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」が、独立行政法人日本学生支援機構の「平成 25 年度留学生交流支援制度」の奨学金に採択され、6名の受入れを行った。また、平成 26 年度に向け、「HIROSHIMA</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>留学生への支援体制の充実について優れた取組を実施したと認められることから、「A」</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>し、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度等を整備する。</p> <p>エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。</p>		<p>and PEACE」及び芸術学部における「文化芸術交換留学プログラム」について、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 26 年度海外留学交流支援制度」の奨学金を 11 月に申請し、双方ともに採択された。</p> <p>以上のとおり留学生受入れプログラムを着実に実施するとともに、海外留学交流支援制度に新たなプログラムが採択されたことから、留学生支援体制の充実を図る優れた取組を実施したものと、「a」と評価した。</p>		<p>と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○サマースクールとしてもつと育っていくポテンシャルがあると信じている。</p>	
第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	<p><b>第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置（大項目）</b></p>		<p><b>大項目評価</b></p> <p>大学を挙げた学生支援及び就職支援の機能充実並びに事務執行体制の強化のため、学生支援室の新設や附属施設としてキャリアセンターを設置するなど、事務組織の改正に取り組んだ。また、年報（公立大学法人広島市立大学の概要）の作成、事務マニュアルの整備により、効率的な事務処理に努めた。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>業務運営の改善及び効率化全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
1 運営体制に関する目標 (1) 機動的な運営体制の構築 理事長（学長）がリーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。	<p><b>1 運営体制（小項目）</b></p> <p>(1) 機動的な運営体制の構築</p> <p>ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとともに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。</p> <p>イ 理事長、理事、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。</p>		<p><b>小項目評価</b></p> <p>年報（公立大学法人広島市立大学の概要）を作成し、教職員の研修や事務引継に活用したほか、広島市公立大学法人評価委員会における基礎資料に使用するとともに、本学ウェブサイトに掲載した。</p> <p>以上のように、計画に掲げる取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>運営体制について取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成25年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 公立大学法人の監査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。</p>	<p>ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。</p> <p>エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築する。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 ア 積極的な広報 (7) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。(再掲) (4) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制を整備する。 (9) 大学の「年報」を作成する。 (エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。 イ 大学運営への学外有識者の参画 理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効性のある監査体制を整備する。 イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築</p>	<p>○「年報」の作成</p>				

中期目標	中期計画	平成25年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 人事に関する目標 広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。	築する。 <u>2 人事（小項目）</u> (1) 柔軟な人事制度の構築 ア 特任教員等の任用制度を導入する。 イ 裁量労働制を導入する。 ウ 兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成する。 (2) 教員評価制度の構築 ア 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。 イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。					
3 事務処理に関する目標 業務内容の変化に柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等により、効果的かつ効率的な事務処理に努める。	<u>3 事務処理（小項目）</u> (1) 事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を実施し、必要に応じて改善を行う。 (2) 業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。 (3) 全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。	○事務処理の内容及び方法に係る点検の実施  ○事務組織の定期的な見直し	<u>小項目評価</u> ○平成24年度に試行的に実施した事務マニュアルの整備を本格実施し、平成25年度から平成27年度までの3か年で計画的に事務マニュアルを作成することとした。このマニュアルを定期的に見直し、更新することにより、事務処理の内容及び方法に係る点検を実施することとした。 ○事務組織についての見直しを行い、以下のとおり平成26年度に組織改正を行うこととした。 ①学生グループと就職支援グループを統合し、専任の室長を配置して学生支援室を新設するとともに、附属施設としてキャリアセンターを開設し、大学を挙げた学生支援及び就職支援の機能充実並びに執行体制の強化を図る。 ②広報部門を所管する企画グループと入学者募集を所管する入試グループを統合して企画室を設置し、企画力及び情報発信力を高め、入学志望者増加への取組を図る。 ③予算・資金管理等を所管する経営グループと人事・給与・危機管理等を所管する総務グループを統合して総務室を設置し、法人の管理部門を一元化・集約化し、管理部門の機能強化を図る。 ④学部の運営支援部門である教育研究支援グループと教務部門である教務グループを統合して教務・研究支援室を設置し、業務の	a	〔評価理由〕 事務処理の改善等について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 4 財務内容の改善に関する目標	<u>第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）</u>					
				a	【評価理由】 財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
				a	【評価理由】 自己収入の増加について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
1 自己収入の増加 教育研究環境を向上させるため、外部資金の積極的な獲得に取り組むなど、自己収入の増加を図る。	<u>1 自己収入の増加（小項目）</u> (1) 外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。 (2) 公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。 (3) 授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。	○多様な収入の確保  ○授業料等の料金設定の検証				
2 管理経費の抑制 全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努	<u>2 管理経費の抑制（小項目）</u> (1) ICT の活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識	○省エネルギー対策の啓発、管理経費の抑制				
			効率化及び教育研究支援機能の強化を図る。 以上のように、マニュアル作成による事務点検の仕組みの構築や事務組織の見直し等により、効果的かつ効率的な事務処理に向けた優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
			<b>大項目評価</b> 自己収入の増加を図るための取組及び管理経費の抑制を図るための取組を着実に実施した。 社会人向け工芸・版画技能講座をはじめとした各種公開講座の開催により、平成 24 年度と比較して 617 千円増の 5,666 千円の受講料収入を得た。また、学内施設の貸付けに当たり、施設の貸付けに伴う駐車場使用料等を新たに徴収することとし、収入増に取り組んだ。 教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、管理費の抑制に努めるため、ガス空調機器の一部更新等による省エネルギー対策を推進するとともに、効率的な組織運営に向けて臨時職員の業務・配置の見直しを行った。 以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			<b>小項目評価</b> ○社会人向け工芸・版画技能講座をはじめとした各種公開講座の開催により、平成 24 年度と比較して 617 千円増の 5,666 千円の受講料収入を得ることができた。また、平成 26 年度からは、新たに開設したサテライトキャンパスを活用して市大英語 eラーニング講座の実施回数を年 2 回から年 4 回に拡充し、更なる収入の確保に取り組むこととした。 ○学内施設の貸付けにより収入の確保を図った。平成 25 年度からは、学内施設の貸付けに際し、駐車場使用料を徴収するとともに、冷暖房費、トイレの水道料金についても徴収することとし、収入増に取り組んだ。その結果、駐車場使用料収入が 53 千円の増、冷暖房費と水道代については 620 千円の収入を得ることができた。 ○平成 26 年度の消費税及び地方消費税の増税に伴い、他大学の動向等も注視しながら検証を行った結果、平成 26 年度も同額の料金設定とすることとした。 以上のように、多様な収入の確保に努め、自己収入の増加に資する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。	a	【評価理由】 自己収入の増加について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			<b>小項目評価</b> ○省エネルギー対策の啓発及び管理経費の抑制に取り組んだ。 【取組実績】 ①教職員に対して省エネルギー対策への取組の徹底を周知	a	【評価理由】 管理経費の抑制を図るために優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>め、管理経費の抑制を図る。</p>	<p>を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。</p> <p>(2) 教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。</p>	<p>○教職員配置等の見直し</p>	<p>②省エネルギー対策として、8月15日を事務局の夏期休業日に設定し、実施</p> <p>③節水対策として、芝生広場への散水に湧水を利用</p> <p>④平成24年度に三井物産株式会社との「クラウド・コンピューティングを活用した外灯省エネ実証実験」に係る外灯の一部LED化を行い、更に各種点灯時間の制御など、省エネ対策に係る運用制御を実施</p> <p>⑤外灯点灯時間を日没30分前から、日没と同時に変更</p> <p>⑥池の水に雨水を利用</p> <p>⑦芸術学部棟のガス空調機器を一部更新</p> <p>○組織運営の効率化に向けて教職員配置等についての検討を行った結果、以下のとおり平成26年度に見直しを行うこととした。</p> <p>①学生担当副理事を配置</p> <p>②キャリアセンターの設置に伴い、キャリアセンター長を配置（入学試験・就職担当副理事が兼務）</p> <p>③学生グループと就職支援グループを統合し、専任の室長を配置して学生支援室を設置</p> <p>④企画グループと入試グループを統合して企画室を設置し、事務局次長が室長を兼務</p> <p>⑤特任職員として国際交流推進員及びプロジェクト推進員を、非常勤嘱託員として建築技師を配置</p> <p>⑥留学生支援専門員及び運転手を廃止</p> <p>⑦事務局所属の臨時職員について業務・配置の見直しを行い、業務効率の向上を図るとともに、社会保険の加入や年次有給休暇等に係る雇用条件の改善を行った。</p> <p>以上のように、管理経費の抑制に向けた優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>		<p>価した。</p>	
<p>第5 自己点検及び評価に関する目標</p> <p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極</p>	<p>第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）</p> <p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p>					

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
的に公開する。	<p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホームページ等で積極的に公開する。</p> <p>4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。(再掲)</p> <p>5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。(再掲)</p>					
第 6 その他業務運営に関する重要目標	<p><b>第 6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置(大項目)</b></p>		<p><b>大項目評価</b></p> <p>建築年数の経過とともに今後必要となる施設の維持修繕の効率的な実施や省エネ設備の導入促進のため、「広島市立大学保全計画」の策定に着手し、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算を行った。また、メンタルヘルス講演会の開催、職場巡視等の実施、教職員を対象としたハラスメントの防止に関する講演会の開催等、安全で良好な職場環境の維持・改善に取り組んだ。</p> <p>以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○長期的展望に立って「広島市立大学保全計画」の策定に入ったこと、教職員の精神的、物理的安全な環境づくりを意識的に行い、実効を上げたこと、また、様々なハラスメントの防止に向けて積極的に対策を講じ、実効を上げたことは、高く評価できる。</p>	B
1 施設及び設備の適切な維持管理等 快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充のための施設及び設備	<p><b>1 施設及び設備の適切な維持管理等(小項目)</b></p> <p>(1) 施設及び設備の効率的な維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。</p> <p>(2) 教育研究機能の充実を図るため、未利用の大学隣接地</p>	○施設・設備の効率的な維持管理の実施	<p><b>小項目評価</b></p> <p>○建築年数の経過とともに今後必要となる施設の維持修繕の効率的な実施や省エネ設備の導入促進のため、「広島市立大学保全計画」の策定に着手し、大規模施設保全に係る優先順位の検討及び概算費用の試算を行った。</p> <p>○大学施設全体の外壁等の劣化状況を把握するため、国際学部棟及び芸術学部棟の外壁調査を試行実施した。また、早期対応が必要と判明した箇所については直ちに修繕を行った。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>施設及び設備の適切な維持管理について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 25 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
の整備に取り組む。	へのセミナーハウス、学生寮、留学生受入施設等の新たな施設整備について検討する。		○平成 25 年度から学内施設の貸付けに伴う駐車場使用料、冷暖房費及びトイレの水道料の徴収により、施設の有効活用による収入増を実現した。また、施設の貸付けに係る事務処理に必要な添付資料を簡素化し、事務処理の迅速化を図った。 以上のように、施設・設備の効率的な維持管理に係る優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。			
2 安全で良好な教育研究環境の確保 学生や教職員の安全衛生管理、人権に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。	2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目） (1) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成する。 (2) 安全衛生管理に関する研修等を定期的実施する。 (3) 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。 (4) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。	○安全衛生管理研修、職場巡視等の実施 ○衛生管理者の養成 ○定期健康診断等の実施  ○ハラスメントに関する研修の実施	<b>小項目評価</b> ○5月から計6回の職場巡視を実施した。また、10月には学内の喫煙場所を12か所削減し、11月にはメンタルヘルス講演会を開催した。 ○衛生管理者の増員に向けた取組として、衛生委員会の委員1名が衛生管理者試験を受験し、第一種衛生管理者資格を取得した。 ○教職員に対し定期健康診断、特殊健康診断（年2回）を実施するとともに、1月にVDT作業従事教職員健康診断を実施した。また、教職員がストレスチェックを行うことができるウェブサイトやメンタルヘルスの相談窓口を紹介した。 ○ハラスメント防止に係る学生向けのチラシの配布（新入生オリエンテーション時、学年別ガイダンス時）を行った。また、教職員向けのハラスメント対応マニュアルの作成に取り組んだほか、3月には教職員を対象としたアカデミックハラスメントの防止に関する講演会を実施した。 以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○教職員の安全管理に意を尽くしたこと、職場の安全な環境づくりを目指し、実行できたことは、高く評価してよい。またさまざまなハラスメント防止に力をいれ、実効のあったことも、高く評価したい。 ○資格の取得等積極的に活動している。	B

## 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 洽	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	角廣 勲	株式会社広島銀行会長	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	